

# 日本漢方協会通信

2018年 2月

## 瞑眩は死語に

吉益東洞(1702-1773)が「もし薬、瞑眩せずんば、その病いえず」と言っている。瞑眩は効果の出る前の一時的な症状のうごきであるとされてきた。弟子である、和田東郭(1742-1803)は、東洞先生は附子を手荒に切っているので副作用が出てしまっていることをのべている。現在、医療事故を対象とした告訴が多数起きている。交通事故でも、服薬指導で眠気について言われていなかったのに、事故の責任は医療従事者であると訴えられた例がある。そうになると漢方家はうかつに瞑眩とは、言ってはならなくなってきた。

### 副作用

漢方は使い方をまちがえると、効果がないばかりか、かえって病状を悪化させたりする。漢方の原典である「傷寒論」には、そのような間違った投薬を「逆」「誤治」と表現し、その場合の対処法まで書いている。その誤治を犯さないためには、漢方薬の使用には「証」(陰陽・表裏・内外・寒熱・虚実)に従わねばならない。

一方、薬局製剤の漢方薬は、一般用漢方製剤製造基準に準拠している。その一般漢方製剤製造基準では、効能効果に「体力」と「しぼり」を付けることによって「証」を現すようにしている。効能・効果以上に「体力」「しぼり」を重視しなくてはならない。体力の弱いひとに体力の強い人の薬を飲ませると、体力を消耗し病気を悪化させるであろうし、逆に体力の強い人に体力の弱い人の薬を飲ませると体に熱などが充満し血圧が高くなったり、太りすぎたりしてしまう。

誤治以外に気お付けなくてはならない問題がある。

### アレルギー

自然物であるが、自然物にもアレルゲンは実在している。食物アレルギーの例をあげる

ゴマ 消風散

ショウバク小麦 甘麦大棗湯

ヨクイニン薏苡仁 麻杏薏甘湯

シナモン桂皮 安中散 葛根湯 桂枝湯

麻黄湯 小青竜湯 八味丸

ゼラチン類 阿膠 温経湯 芎藭膠艾湯

炙甘草湯 猪苓湯

添付文書には、「以前に服用して気持ちが悪くなったりアレルギー症状を起こしたり人は服用しないでください」と表現している。

### 大黄

大黄を含む製剤で下痢・腹痛をおこすことがある  
乙字湯 大柴胡湯 柴胡加竜骨牡蛎湯 大黄牡丹皮湯 潤腸湯 桃核承気湯 防風通聖散 調胃承気湯 大黄甘草湯 治打撲一方 通導散 三黄瀉心湯 麻子仁丸 大承気湯 桂枝加芍薬大黄湯 茵陳蒿湯 九味栝榔湯  
なお、大黄はアルカリ性で赤くなるので血尿や血便とまちがえられることがあり、酸性で赤が消えることで血液と区別できる。

### 甘草

低カリウム血症が有名です。初期の段階でこれらの症状(血圧上昇 浮腫 動悸 息切れ 倦怠感 脱力感 筋肉痛 四肢痙攣 麻痺)を見逃さないようにすることが必要になる。また予防するために生野菜・お刺身・果物(バナナ・アボガド・メロン) 民間薬の十薬(どくだみ)・南蛮毛(トウモロコシの毛) 果物ジュースなどのカリウムの多いものを摂取するよう指導する。

### 山梔子の腸間膜静脈硬化症

添付文書に「長期服用により腹痛・下痢・便秘・腹部膨満感などが繰り返しあらわれる場合には直ちに医師の診断を受けてください。  
茵陳蒿湯 温清飲 黄連解毒湯 加味帰脾湯 加味逍遙散 荊芥連翹湯 五淋散 柴胡清肝湯 梔子柏皮湯 辛夷清肺湯 清上防風湯 清肺湯 防風通聖散 竜胆瀉肝湯  
間質性肺炎 ⑥肝炎については省略します。

●対策 少量から服用してもらい、薬の増量といやな反応を早く知ることが必要と思

●副作用報告で例数が一定量以上出現すると、報道され、添付文書に書かなくてはならなくなる。そこで生産量の多い物から副作用が発現したかのようになっている。

三上正利記